

Y はあ…(溜息)

M どうしたんですか?先輩。

Y いま、かくかくしかじかの事情で「キュビズムって何だったんだろうな」と考えていたんです。

M キュビズム!確かに、20世紀初めころにフランスで始まった美術運動ですね?パブロ・ピカソがショルジュー・ブラックと始めた…。

Y そう。ちょっと言いにくい言葉だけど…「キュビズム」の語源は知っていますか?

M キュビズム(Cubisme)の語源はキューブ(Cube)、つまり立方体のこと。私たちの目に映るものたちをそのまま描くのではなく、**ものを様々な視点からとらえた上**でいったん**立方体や円錐形などに分解し、再構成する**という造形手法ですよね!

Y そのとおり。ピカソの絵では、「泣く女」なんかが有名ですね。人の顔に線がたくさん入っていたり、見方によって泣いて見えたり怒って見えたりする絵を見たことがある人も多いんじゃないかな。

M して、キュビズムについて考えている「かくかくしかじかの事情」とは??

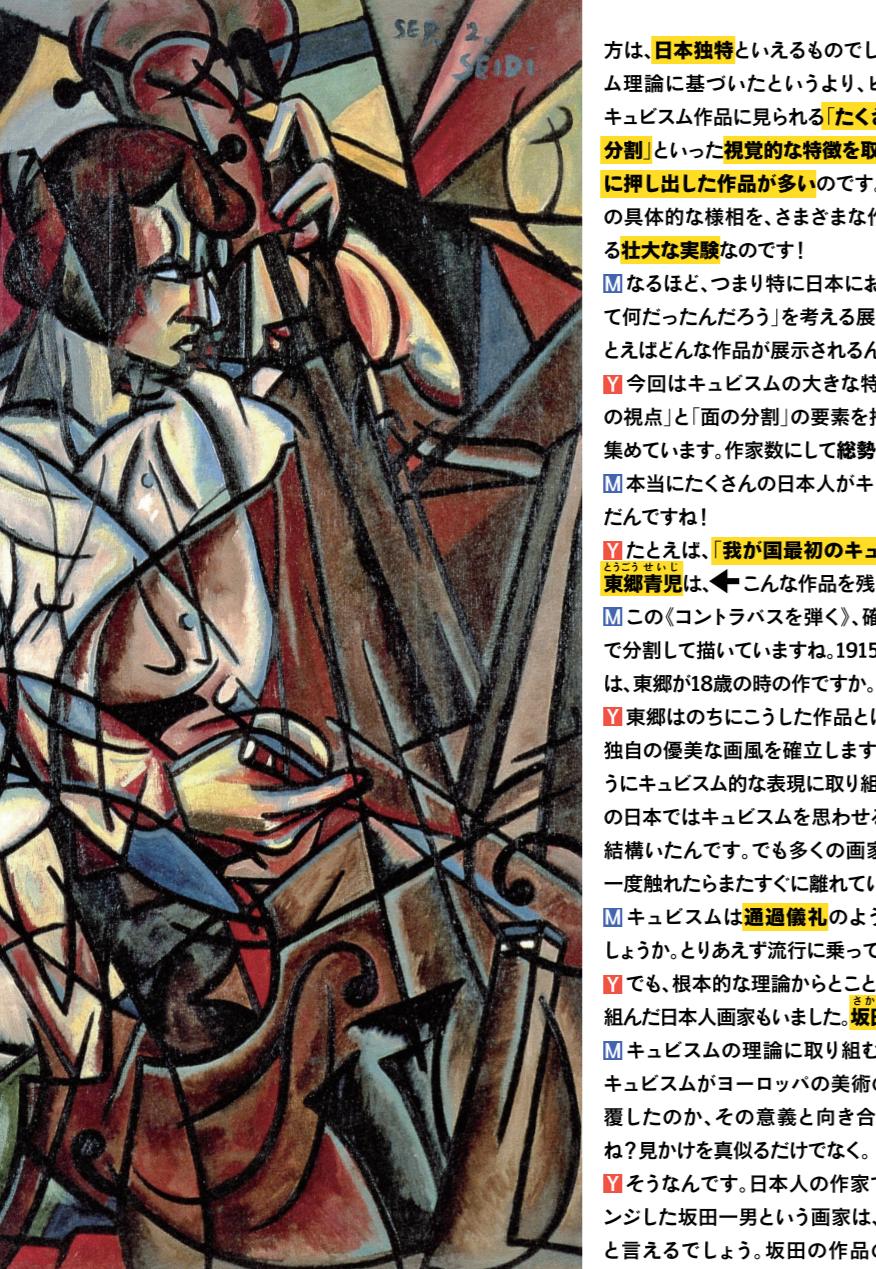
Y よくぞ聞いてくれました。実は来る2月12日から、高知県立美術館で企画展「日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト—」が開催されるのです。

M あれ、でも「日本における」?キュビズムはもともとフランスの芸術動向ですよね?

Y キュビズムの登場は言わば20世紀の絵画界に起った「革命」。ヨーロッパの美術の伝統が古代ギリシアまで遡るのは知っていますね?そのギリシア以来、画家たちの常識であった「**ものを写実的に描くこと**」をキュビズムは覆してしまった。その衝撃と影響力はすさまじい。フランス国内にとどまらず、その後の世界の美術の大きな流れの源流となりました。日本にもその波は到達しますが、そもそもヨーロッパの伝統とは異なる歴史を持つ日本の画家たちの受け取り

切り餅よりも丸餅が好き。

M



東郷青児

《コントラバスを弾く》
1915年 東郷青児記念 捐贈ジャパン日本興亜美術館

方は、日本独特といえるものでした。厳密なキュビズム理論に基づいたというより、ピカソらが試行したキュビズム作品に見られる「たくさんの視点」と「面の分割」といった視覚的な特徴を取り入れ、それを前面に押し出した作品が多いです。今回の展覧会はその具体的な様相を、さまざまな作品を通じて検証する壮大な実験なのです!

M なるほど、つまり特に日本において「キュビズムって何だったんだろうな」を考える展示なわけですね!たとえばどんな作品が展示されるんですか?

Y 今回はキュビズムの大きな特徴である「たくさんの視点」と「面の分割」の要素を持つ作品を約160点集めています。作家数にして総勢約90名!

M 本当にたくさんの日本人がキュビズムに取り組んだんですね!

Y たとえば、「我が国最初のキュビスト」と呼ばれた東郷青児は、こんな作品を残しています。

M この《コントラバスを弾く》、確かに人の形を色面で分割して描いていますね。1915年の作品ということは、東郷が18歳の時の作ですか。若い!

Y 東郷はのちにこうした作品とは似ても似つかない独自の優美な画風を確立しますが、若い頃はこのようにキュビズム的な表現に取り組んだんですね。戦前の日本ではキュビズムを思わせる作品を残した人が結構いたんです。でも多くの画家は、東郷のように、一度触いたらまたすぐに離れてきました。

M キュビズムは通過儀礼のようなものだったんでしょうか。とりあえず流行に乗っておいた、みたいな…

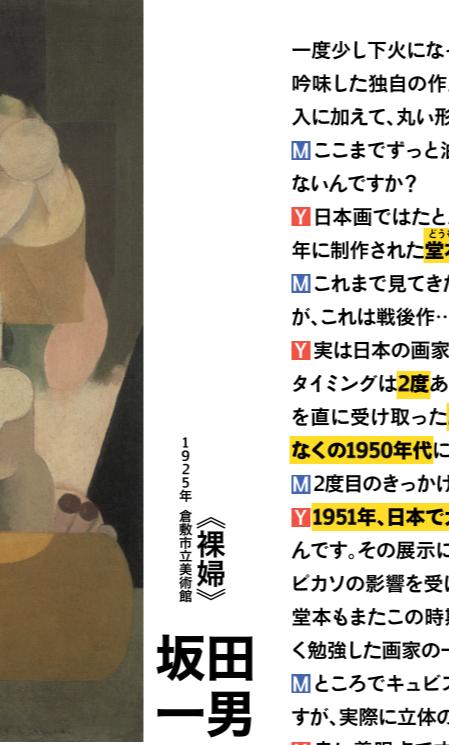
Y でも、根本的な理論からとことんキュビズムに取り組んだ日本人画家もいました。坂田一男がそうです。

M キュビズムの理論に取り組むというのは、つまりキュビズムがヨーロッパの美術の伝統をどのように覆したのか、その意義と向き合うということですね?見かけを真似るだけではなく。

Y そうなんです。日本人の作家でこの課題にチャレンジした坂田一男という画家は、本当に稀有な存在と言えるでしょう。坂田の作品のほとんどは、本場ヨーロッパへの留学中に描かれました。

M そういえば、高知でもキュビズムに集中的に取り組んだ画家がいると聞きましたが…

Y 今西中通ですね→彼は日本でのキュビズム熱が



坂田一男

1915年 高知市立美術館

みどりの静物

今西中通

Y 本展担当学芸員。

Y 切り餅よりも丸餅が好き。

M 先輩

Y 続きは展覧会場で。お楽しみ!

Y はあ…(溜息)

Y どうしたんですか?先輩。

Y いま、かくかくしかじかの事情で「キュビズムって何だったんだろうな」と考えていたんです。

M キュビズム!確かに、20世紀初めころにフランスで始まった美術運動ですね?パブロ・ピカソがショルジュー・ブラックと始めた…。

Y そう。ちょっと言いにくい言葉だけど…「キュビズム」の語源は知っていますか?

M キュビズム(Cubisme)の語源はキューブ(Cube)、つまり立方体のこと。私たちの目に映るものたちをそのまま描くのではなく、**ものを様々な視点からとらえた上**でいったん**立方体や円錐形などに分解し、再構成する**という造形手法ですよね!

Y そのとおり。ピカソの絵では、「泣く女」なんかが有名ですね。人の顔に線がたくさん入っていたり、見方によって泣いて見えたり怒って見えたりする絵を見たことがある人も多いんじゃないかな。

M して、キュビズムについて考えている「かくかくしかじかの事情」とは??

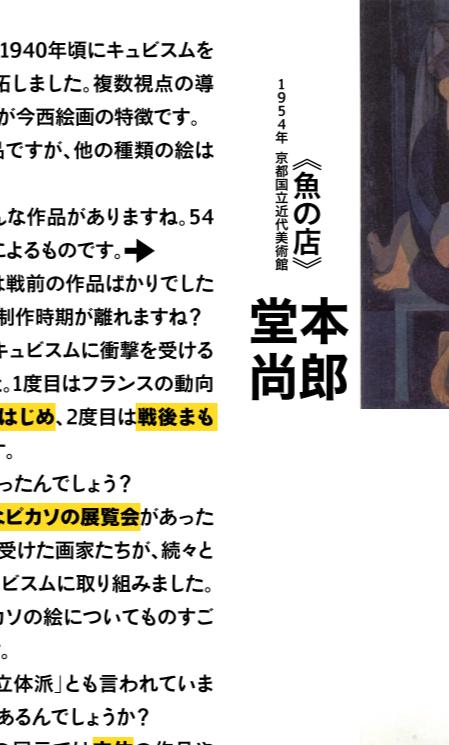
Y よくぞ聞いてくれました。実は来る2月12日から、高知県立美術館で企画展「日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト—」が開催されるのです。

M あれ、でも「日本における」?キュビズムはもともとフランスの芸術動向ですよね?

Y キュビズムの登場は言わば20世紀の絵画界に起った「革命」。ヨーロッパの美術の伝統が古代ギリシアまで遡るのは知っていますね?そのギリシア以来、画家たちの常識であった「**ものを写実的に描くこと**」をキュビズムは覆してしまった。その衝撃と影響力はすさまじい。フランス国内にとどまらず、その後の世界の美術の大きな流れの源流となりました。日本にもその波は到達しますが、そもそもヨーロッパの伝統とは異なる歴史を持つ日本の画家たちの受け取り

切り餅よりも丸餅が好き。

M



堀内正和

1915年 姫路市立美術館

Cubism

Y 本展担当学芸員。

Y 切り餅よりも丸餅が好き。

M 先輩

Y 続きは展覧会場で。お楽しみ!

Y はあ…(溜息)

Y どうしたんですか?先輩。

Y いま、かくかくしかじかの事情で「キュビズムって何だったんだろうな」と考えていたんです。

M キュビズム!確かに、20世紀初めころにフランスで始まった美術運動ですね?パブロ・ピカソがショルジュー・ブラックと始めた…。

Y そう。ちょっと言いにくい言葉だけど…「キュビズム」の語源は知っていますか?

M キュビズム(Cubisme)の語源はキューブ(Cube)、つまり立方体のこと。私たちの目に映るものたちをそのまま描くのではなく、**ものを様々な視点からとらえた上**でいったん**立方体や円錐形などに分解し、再構成する**という造形手法ですよね!

Y そのとおり。ピカソの絵では、「泣く女」なんかが有名ですね。人の顔に線がたくさん入っていたり、見方によって泣いて見えたり怒って見えたりする絵を見たことがある人も多いんじゃないかな。

M して、キュビズムについて考えている「かくかくしかじかの事情」とは??

Y よくぞ聞いてくれました。実は来る2月12日から、高知県立美術館で企画展「日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト—」が開催されるのです。

M あれ、でも「日本における」?キュビズムはもともとフランスの芸術動向ですよね?

Y キュビズムの登場は言わば20世紀の絵画界に起った「革命」。ヨーロッパの美術の伝統が古代ギリシアまで遡るのは知っていますね?そのギリシア以来、画家たちの常識であった「**ものを写実的に描くこと**」をキュビズムは覆してしまった。その衝撃と影響力はすさまじい。フランス国内にとどまらず、その後の世界の美術の大きな流れの源流となりました。日本にもその波は到達しますが、そもそもヨーロッパの伝統とは異なる歴史を持つ日本の画家たちの受け取り

切り餅よりも丸餅が好き。

M



一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、一般900円(720円)、大学生600円(480円)、高校生以下無料

1954年 京都国立近代美術館
主催 高知県立美術館 調査研究会
協賛 ライオン、大日本印刷、損害保険ジャパン日本興亜
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、RICOH商事、日本通運
特別協力 日本交通

一般前売720円、



アーティスト・イン・レジデンス2016
ヴィルヴァ・タロネン&ナンニ・ヴァパー・オリ

「Portable Home」を終えて あなたにとっての「Home」は何ですか?

文〇朝倉 芽生(当館企画事業課)
撮影〇深田 名江(下段右から2番目以外)

高知と愛媛から集まつた個性豊かなパフォーマーたち

今年で6年目となる当館のアーティスト・イン・レジデンス。今回はフィンランドから振付家のヴィルヴァ・タロネンと照明デザイナーのナンニ・ヴァパー・オリが、約1か月間高知に滞在しながら作品創作に取り組みました。

「Home(=家、ふるさと、本拠地)とは?」という、自国から遠く離れた土地で深めるに相応しいテーマを掲げた創作の軸となったのは、地元参加者を募って行われたりサーチワークショップと、11月3日の公演に向けた地元パフォーマー5名との日々の稽古でした。

全5回実施されたワークショップでは、「モノ」「場所」「動き」という異なる角度からテーマに迫りました。当たり前すぎて普段は気を留めないような事柄をふと意識化させるような課題や問い合わせ、アーティストから参加者へ、次々と投げかけられていきました。そしてそこで得た参加者からのフィードバックが創作のヒントになっていくという、「出演者」や「スタッフ」とはまた異なる作品創作への関わり方が模索されました。

一方、公演に向けて美術館ホールで連日行われた稽古は、アーティストとパフォーマー達が密にコミュニケーションを取る機会となりました。アーティストの想いを伝えるためのコミュニケーションが生まれ、パフォーマー達が密にコミュニケーションを取る機会となりました。

取りながら、年齢や経験など異なるバックグラウンドを持ったそれぞれの人となりを知っていくところから始まりました。それぞれのあるがままを受け止め、それを生かしながら、朗読や独唱、即興ダンスなど、一人ひとりのその人らしさがじみ出るようなソーシーンが徐々にかたちづくられていく、限定期的な解釈に縛らない多様なHomeのあり方を提示する、シンプルながらも緻密で静かな強度を持ったパフォーマンスが仕上がりました。アーティストのアイデアが、滞在中に試行錯誤しながら深められ、緩やかに作品へと昇華されていく。ここ高知でアート作品が生まれるその瞬間に立ち会うことができるのが、レジデンス事業の醍醐味の一つでしょう。

高知を皮切りに、世界中の様々な土地で継続していくという「Portable Home」プロジェクトの今後を、これからも見守っていきたいと思います。



リサーチワークショップの様子

パラグアイ訪問記

collection vol.95

切腹 谷平務

1964年 ミクストメディア 187×96cm 第3回前衛土佐派展出品

当館学芸員が
南米パラグアイに
行つてきました!

先住民たちの市場にて、伝統工芸ニヤンドゥティ

2016年の春開催した「大原治雄写真展—
ラジオの光、家族の風景」の一連の事業として、
高知県内の施設などと連携し「高知の移民文化
発信プロジェクト」を立ち上げ、南米を中心に
高知からの移住者の活動を紹介した。この取り
組みにより、国際協力機構(JICA)から、パラグ
アイ移住者及びJICAボランティア隊員の活動
視察調査団のお声がけがあった。主な訪問先は
アマンバイ高知県人会と日本語学校、アスンシ
オン高知県人会やボランティアの方の活動先
であるが、パラグアイのアート事情にも少しでも
触れられればと願い、調査団に参加した。

訪問先の一つアマンバイ県は、ブラジルとの
国境の街。自由に往来できるのでブラジルから
のお買い物客も結構多いとのこと。「だったら
アート系のショップがあるかも」と期待したが、車
窓から見る限りギャラリーがない、本屋さんもない。
「ここにはアートはないのか…」と気落ちして
いたところ、アマンバイ唯一らしいギャラリーを
紹介してくれた。

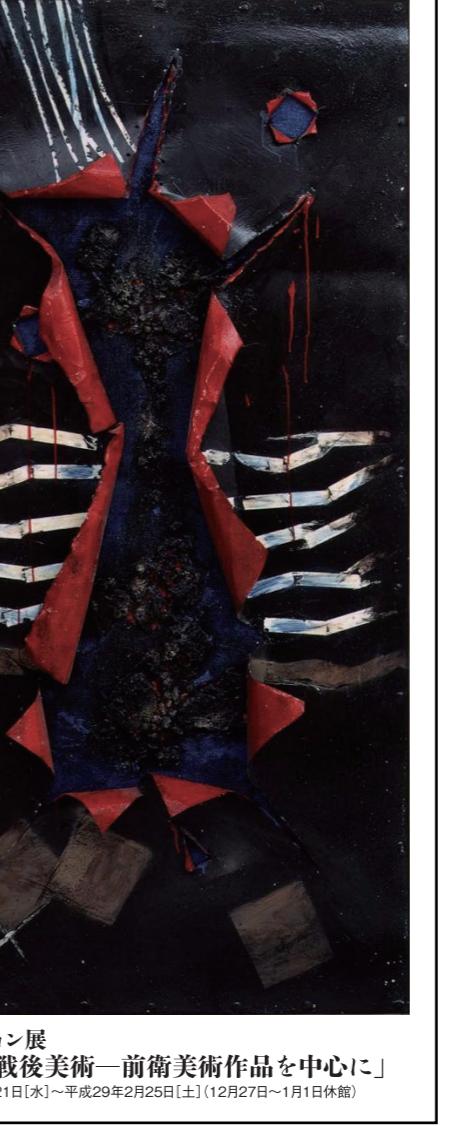
当館でも
無料配布中!

文〇影山 千夏(当館学芸員)

「高知の移民文化発信プロジェクト」の小冊子
『海を渡った高知スピリット』ができました!

写真家・大原治雄をはじめ、
志を抱いて新天地で活躍した人々などを可愛らしいイラストとともにご紹介。
高知の移民文化についての情報がぎゅぎゅっと詰まった一冊です。

フリオさんと
フリオさんのギャラリー



大河歴史小説『竜馬がゆく』を執筆した文豪・司馬遼太郎がある時高知市へ講演にやって来たときのこと。はりまや橋近くの喫茶店に入り窓越しに道行く人々の姿を眺めながら、彼は「土佐人もどうだめになった。顔つきがまるでなっていない。以前の土佐の男たちの顔は、皆もっと怒っていた」と嘆いたそうである。

司馬遼太郎が『竜馬がゆく』の連載を開始したのが1962年の6月。この翌7月に高知丸百货にて『第1回前衛土佐派展』が開催されている。濱口富治と高崎元尚をはじめとする前衛美術を志向した作家たち18名が、各々思惑を超えて大同団結し、県内画壇に一大派閥をぶち上げたのであった。

司馬の嘆息のごとく、前衛土佐派の時代、高知の作家たちはいつも皆怒っていた。そして作品も怒っていた。作品の画面には物騒な様や包丁がいくつも貼りつけられたり、県内教育界を大きく揺るがした動

画

評議争を主題にしたり、作品名が『切腹』だったり。

たゞらつむ

日本における

キュビズム

アーティスト

アーティスト